

## 「わたしを味わう」

青森県 清涼寺住職 柿崎宏隆

先日、あるご老僧と静かな部屋でお茶をご一緒しました。外は風が強く吹いており、湯気立ち上るお茶がとても美味しかった。

「うまいなあ。」と私の口から思わず言葉がもれました。

するとご老僧が私にニコッと微笑んでおっしゃいました。

「今のその『うまいなあ』を禅語で言ってみてください。」

『喫茶去』や總持寺をお開きになられた瑩山禪師様がおっしゃった『茶に逢うては茶を喫す』といった文句が浮かび、今の自分の気持ちに合う最適解を探して沈黙する私。その数秒の逡巡を見て、ご老僧がさらっと一言。

「うまいなあでしょ。それ以外ないよ。それが禅語でしょ。」そう言ってご老僧は美味しそうにお茶をすすりました。

私はぐうの音も出ませんでした。

仏道は廣大無辺ですから、それを表す言葉もまた汲めども尽きません。喫茶去、照顧脚下と言い、そして日日是好日とも言う。沈黙さえも答えになる。いわゆる禅語は全部ずばり、仏道そのものを指し示しています。何かに例えて説いているのではありません。

しかし大事なことは、どんな偉い人の的を射た言葉であっても、全部私の体験ではないということです。体験は常に私のものですが、それを他人の言葉に当てはめようとすれば、どうしたって私からズレてしまう。

仏道とは自己なり。だからお茶をただ味わうだけでいい。うまいなあと言葉にする必要さえ本来ないのです。

坐禅もまた黙っていのちを味わう行為です。瑩山禪師様が坐禅についてお示しになられた坐禅用心記という著書の中で、坐禅は家に還ることと御示しです。それは自分の外に答えを探すのではなく、今息をする私をひたすらただ味わうということです。すると坐るその場所で、私といういのちが説明抜きで輝いていると知れるのです。

ここ鶴見にございます大本山總持寺をはじめ、坐禅にふれられる所は全国に沢山ございます。ぜひ一緒に坐ってみませんか？